

資料－２ 普天間飛行場跡地利用計画策定審議委員会の記録

1) 日時、場所

- と き : 平成21年2月27日(金)、14:30~16:30
- と ころ : カルチャーリゾートフェストーン

2) 出席者(敬称略)

- 委員
 - 尚弘子 / 琉球大学名誉教授
 - 黒川光 / 東京工業大学名誉教授
 - 池田孝之 / 琉球大学工学部教授
 - 上間清 / 琉球大学名誉教授
 - 福島駿介 / 琉球大学名誉教授
 - 宮城隼夫 / 琉球大学副学長
 - 富川盛武 / 沖縄国際大学学長
 - 平良哲(代理:保坂好泰) / (財)沖縄観光コンベンションビューロー会長
 - 富田祐次 / (財)海洋博覧会記念公園管理財団理事長
 - 知念榮治(代理:山城勝) / 沖縄県経営者協会会長
 - 荻堂盛秀(代理:當山靖博) / 沖縄県商工会連合会会長
 - 國場幸一 / 沖縄県商工会議所連合会会長
 - 大城弘道 / 沖縄県情報通信関連産業団体連合会会長
 - 仲村信正 / 日本労働組合総連合会・沖縄県連合会会長
 - 大城節子 / (社)沖縄県婦人連合会会長
 - 小渡玠(代理:野中正信) / 宜野湾市商工会会長
 - 宮城勝子 / 宜野湾市婦人連合会会長(婦人)
 - 大川正彦 / 普天間飛行場の跡地を考える若手の会会長
 - 又吉信一 / 宜野湾市軍用地等地主会会長
 - 佐喜真祐輝 / 宜野湾市軍用地等地主会副会長
- オブザーバー
 - 槌谷裕司 / 内閣府大臣官房審議官
 - 仲村吉広 / 内閣府跡地利用促進室長
- 事務局
 - 平良宗秀、當銘健一郎、比嘉悟 / 沖縄県
 - 安里猛、山内繁雄、城間盛久、新垣勉 / 宜野湾市

3) 配布資料

- 資料－1 沖縄県の基本構想の策定スケジュール等について
- 資料－2 跡地利用計画策定に向けた取り組みの進捗状況
- 資料－3 跡地利用計画策定に向けた関連調査の概要
- 資料－4 本年度調査の概要

4) 質疑内容（発言順、敬称略）

黒川副会長：昨年度に比べて具体性が増し、地権者にも分かりやすくなった印象がある。気になる点は、「環境」という言葉の使い方で、洞爺湖サミットなど現在の「環境」にかかる話題は『低炭素社会』が主であり、京都議定書を踏まえて二酸化炭素を削減することが我が国、世界に求められていることである。例えば、スウェーデンの工場跡地26haでは「化石燃料ゼロ」のまちづくりに取り組んでおり、世界の人々が見に来ている。普天間跡地でも『二酸化炭素削減に向けた環境』の先進的な地域に向けて、化石燃料を極力使わない徹底した環境の取り組みが望まれる。

上問委員：①跡地利用計画の策定予定年度は如何に。

②跡地利用計画策定に向けた取り組み（資料2）に、基本方針の位置づけが明記されていない。分野別計画の検討は、基本方針が前提条件になっているのではないか。

事務局：①跡地利用計画は、行動計画において「返還の3～4年前までに策定する」とこととしているが、返還時期が見えないため具体的な策定予定年度を示すことができない。逆に跡地利用計画を策定してしまうと、3～4年後に返還されると見られる可能性もあるため返還予定年度の記載は割愛させて頂いた。

②行動計画において、基本方針に基づいて跡地利用計画を策定していくための手順、方法等を示している。各分野ごとの検討項目・内容は、基本方針にそっていると理解している。

池田委員：①分野別計画は全体計画のコンセプトの中で如何なる関係にあるかが重要と考える。これを確認した上で分野別計画を整理した方が分かりやすいのではないか。

②「集落空間再生住宅」が気になる。このような住宅地は誰が開発して、誰が住むのか。気持ちは分かるが、現実離れしているのではないか。現代的なものと融合させる点が見えない。

③（仮）普天間公園は、中南部都市圏の人々に役立つものとするためには100haでも小さい印象がある。より大規模にするという意気込みがほしい。

④交通に関しては、土地利用方針図だけでは分からない。公共交通軸や交通拠点という言葉がでてくるが、何処にどの様に入れていくかは重要な話題と考える。

事務局：①分野別計画は、行動計画の中で整理し、県・市の各部局に振り分けて検討している。中間とりまとめでは、これらを全体計画としてまとめていきたい。

②旧集落の再生は、基本方針における「旧並松街道や旧集落の再生」を受けたものであり、現代の生活とも両立できる集落が再生できないかという観点で計画例として提案させて頂いた。誰がやるかは大きなテーマであるが、多様な人々に住んでもらえるように旧集落の良さを取り入れながら現代の生活に対応した整備ができないかと考えている。

③（仮）普天間公園100haは、広域緑地計画において100ha以上と位置づけられており、具体的な検討を進める中で規模が決まってくるのではないかと考えている。

④交通については、今後、県の交通政策部門にお願いして調査を行っていきたい。中部縦貫道路や直野湾横断道路は、ルート・構造形式などが決まっていな中で、今回はイメージを示している。計画が具体化した段階でより詳細な図等でご説明したいと考えている。

福島委員：①沖縄 21 世紀ビジョン（仮称）は、2014 年より先の内容も入れ込んでほしい。地方分権の中で、計画開発を公共と民間がどのように分担していくかを踏まえると 2014 年より先の内容も展望しておくことが望ましいのではないかと。

③計画開発の例は事例か。基本計画の絵としては生々しいと感じるが、どのような経緯でこのような絵が出されることになったか。

事務局：①普天間の場合は長期的な事業になるだろうが、今段階で 2030 年までの将来を展望できていないため、2014 年度のことを説明したということに理解願いたい。公共と民間の棲み分けは、貴重な意見として今後考えていきたい。

②計画例は事例ではなく、普天間のこういう場で、このようなイメージの計画例はどうかということを示したものである。地権者の方々との意見交換を具体的に進めるための「たたき台」として提示させて頂いた。

尚会長：パブリックインボルブメントで、昔の土地に戻りたいという地権者の方々の意向を念頭に置きながら、一つの計画例として考えて頂きたい。

小渡委員（代理：野中）：①周辺市街地との連動性をもった計画を返還前に整理できないか。宜野湾市では、普天間飛行場があるがゆえに周辺のまちづくりが非常に遅れている。特に幹線道路整備が遅れている。

②現普天間基地の滑走路には相当のコンクリートが入っていると聞いている。このコンクリートの処理方法なども同時に考えてほしい。

③沖縄コンベンションセンターだけでは不十分であり、跡地にこれと連動した施設を整備することも一つの方向と考える。

事務局：①滑走路、土壤汚染等の原状回復は法律上、国の責任で実施することになっている。現在は基地への立ち入り調査ができていないが、今後、各種情報が明らかになってくる段階で手法等がでてくるだろう。

②「観光振興拠点地区」の中に既存コンベンション施設を補完し、一体利用による機能強化を図る施設整備を示しており、このようなことも考えている。

富川委員：①跡地利用計画策定に向けた平成 21 年度の調査は、商業分野別の立地モデルや産業面の検討も行ってほしい。

②「観光振興拠点地区」などでは、5～10 年先の観光を見据える必要がある。今後の「観光」は、世界一の安心・安全、環境、教育などへの対応が必要であり、将来のニーズに対応した次元の高い「観光」とは如何なるものかを検討すべきではないか。

尚会長：世界一の安全・安心は、いろいろな面で考慮すべき事柄であろう。

大城委員：箱物に行くまでの使いやすい交通体系整備、幼児～高齢者などの交通弱者が移動しやすく、何時でも・誰もが利用しやすい施設整備をお願いしたい。まずは地権者の方々の意見を取り入れることをしっかり行い、宅地であるのか、農地であるのか、産業地であるのかなども考えながら振興策を検討することが必要ではないか。

大川委員：本年度調査で具体的イメージが示されたが、これでいいのかという心配もある。行動計画の中で 8 分野の検討をすることになっており、若手の会でもそれらについて検討をしている。平成 22 年度までに中間取りまとめを行うこととされているが、それまでに全 8 分野について地元の意見を取りまとめられるか心配である。中間とりまとめには地権者や地元住民の意見を十分反映してほしい。

又吉委員：①返還の時期が決まらないので、これまで地権者の関心が高まってこなかった。今

回イメージ図が提示されたことは進歩であるが、イメージだけが先行しないように配慮してほしい。

②米軍再編のロードマップで嘉手納以南の返還が示されたが、地権者の懸念は、普天間で財政的な担保がとれるかということである。まちづくりによる県民・市民・地権者等への経済効果をだして、ビジョンを作成して頂きたい。

事務局：普天間飛行場跡地の計画づくりについては、長期的・持続的な中で需要を見据えて弾力的に変更していく仕組みづくりを考えている。このような中で、取り組みのスケジュールは、行動計画に示されるように、今後の返還スケジュール等を踏まえて目標年次を見定めていく。また経済関連については、「需要の創出」という観点も考えている。今後とも様々な材料を提供し、地権者の方々の意見を伺いながら関係者が連携して取り組んでいきたい。

槌谷オブザーバー：普天間飛行場の移設・返還については、平成 18 年の日米合意に基づいて官房長官ヘッドのもとで協議会を進めている。沖縄振興特別措置法のなかでも移設・返還を見据えた跡地の利用について取り組んでおり、本日のご意見を受け止めて、しっかり取り組んでいきたい。

黒川副会長：基地の返還時期が分からないことは、各関係者が試行錯誤しながら、それぞれの立場で人生設計をしていく十分な時間があるとも考えることができる。この試行錯誤の過程が重要であり、自分のおよげる幅を見つけていくことが一つの着地点ではないか。

以上